

【事業報告】

2021年・2022年度 学友会事業報告

〔総括〕

令和3・4年度の学友会事業は、これまで通り「会員相互の親睦を図る」、「母校の発展を後援する」を念頭に常置委員会を中心に計画が進められたが、一部行事は新型コロナの影響により通常開催は見送られた。

事業結果の総括を報告する。

(1) 母校への後援活動について

入学式・卒業式に臨席し祝辞を述べ、その中で学友会の活動を紹介。加えてオープンキャンパスでは「放射線技師の魅力」を紹介し、各種装置(一般、CT、MRI、マンモ)の説明を担当する。また、大瑠璃祭では主に3年生を対象に就職や国家試験対策に関するアドバイスを行なうなど、学園行事に積極的に協力した。

(2) 支部との連携活動について

会員相互の親睦・親交を図るため、定期的な支部総会の開催を要請していたが、新型コロナの影響により対面での開催は叶わなかった。但し、オンラインでの参加が可能な支部総会には本部役員が参加するよう努めた。

(3) 常置委員会について

理事会は、対面+Zoomによるハイブリッドで年4回開催した。

(4) 学友会名簿2022年版の発行

広告収入も厳しい情勢の中、2年ごとに発行している会員名簿を2022年11月に発行した。

〔委員会報告〕

(1) 庶務委員会

通常の業務として理事会(ハイブリッド型:4回)および各委員会、打合せ会議等の開催案内および会議運営を行った。理事会は新型コロナウイルス感染症のため対面及びZoomを用いたハイブリッドで開催した。

学友だより(年4刊)の発送、ホームページの定期的な更新および内容の充実を図った。会員情報管理、支部の役員名簿、卒業生就職先名簿など各種文書の取扱業務を行った。また、支部総会および同窓会開催時には、会員宛名シールの提供および案内状発送等の支援を行った。

(2) 編集委員会

「学友だより」を下記の通り年4回、計8号発行し情報を発信した。

学友だよりの内容は、予定していた掲載事項と寄稿いただいた原稿やイベント等の報告を掲載し、加えて随時送られてくる事項について掲載した。新型コロナ感染症の影響で支部総会や同窓会が中止又は延期されるなか、会員の皆様の寄稿により文章だけでなく写真の掲載も充実し、通巻240号以降も通常どおりに配布できたことに感謝申し上げる。計8号の総頁数が120頁となり、前年度総頁数88より32頁増加した。

通巻 239号	2021年(R3-No1)	令和3年4月10日発行	8頁
通巻 240号	2021年(R3-No2)	令和3年7月10日発行	20頁
通巻 241号	2021年(R3-No3)	令和3年10月10日発行	12頁
通巻 242号	2022年(R3-No4)	令和4年1月10日発行	20頁
通巻 243号	2022年(R4-No1)	令和4年4月10日発行	12頁
通巻 244号	2022年(R4-No2)	令和4年7月10日発行	16頁
通巻 245号	2022年(R4-No3)	令和4年10月10日発行	16頁
通巻 246号	2023年(R4-No4)	令和5年1月10日発行	16頁
総頁数 120頁			
通巻 247号	2023年(R5-No1)	令和5年4月10日発行	12頁

(3) 企画委員会**1) 就職相談・懇談会**

2021年5月22日に4学年を対象とした、例年通り就職懇談会を開催した。西田理事(短13回生)の司会のもと、第一

部では、泉本涼介氏(大8回生)、八木允人氏(短17回生)、竹井 美佐希氏(短13回生)、風川 かおり氏(短10回生)に就職先の病院の特徴や予防医学、女性技師としてのライフスタイル、学生時代のエピソード等各々の個性あふれる講演をしていただいた。

第二部では錦副会長(54回生)に面接のポイント、好印象の秘訣など講演をいただき、またQ&Aでは学友会理事やオブザーバーによる回答をいただいた。また、司会の西田理事からは公立病院の役割や特徴などの講演をしていただいた。相談員として予防医学、管理職、企業、大学病院、私立病院に大きくグループ分けをして、学生の相談に答えるようにした。

2022年5月28日に4学年を対象とした、例年通り就職懇談会を開催した。西田理事(短13回生)の司会のもと、西谷学友会副会長より学友会の歴史、活動についての説明をしていただいた。

第一部の「先輩からの一言」では、学生により近い年齢の講師である大沼 稜氏(大10回生)、伊勢聖大氏(大9回生)、森 郁望氏(大7回生)、杉本賽季氏(大6回生)から、国家試験対策、仕事のやりがい、検診業務の内容、漏洩線量の話や体験談などの講演をいただきました。

第二部の「お母さん技師さんからの情報提供」では、竹井 美佐希氏(短13回生)に、四人のお子さんを持つお母さんとしての経験(子育て、産前産後休業、新人技師の教育等)、「採用する側からのアドバイス」として黒田大悟氏(短3回生)に面接試験の着眼点についてのアドバイス、「運と縁」という話を講演していただいた。

2)大瑠璃祭(学園祭)の相談コーナー

2021年10月30日の大瑠璃祭(学園祭)は、コロナウイルス蔓延により中止となったが、3年生をメインに相談コーナーを開設し52名の参加があった。辻居理事を中心に、15分単位でグループ相談、個人相談で技師長クラス、主任クラス、新卒と様々な相談員を揃えて行った。

2022年10月29日の大瑠璃祭(学園祭)にて、3学年に対して就職相談会を開催した。辻居理事を中心にマスク着用、相談員と学生の間にアクリル板衝立を立てるなどのコロナ感染対策をしながら対応をした。学友会相談員39名、参加学生は65名であった。今回からは、Web開催で地方の相談員にも参加してもらうなどの新しい試みも行った。

3)オープンキャンパスへの参加

大学からの要請により、受験生及び保護者に対して現役の技師による放射線機器の説明、実際の装置を使つての実演を行った。

・2021年度オープンキャンパス

7月17日(土)、8月8日(日)、8月21日(土)何れの日もマスクやアイシールド等のコロナ対策を実施した。一般撮影、CT検査、MRI検査、マンモグラフィ、ポータブル装置を用いての撮影デモンストレーション、技師の業務紹介のプレゼンテーションを行った。

京都桂病院スタッフ

出石弘伸(57回生)、池 和秀(65回生)、芝本昂平(大3回生)、樋口大規(大3回生)、泉本涼介(大8回生)、深松奈央(大8回生)、大沼 稜(大10回生)、片岡 環(大11回生)、高槻病院 岩本大成(大6回生)

京都第二赤十字病院スタッフ

正者智昭(57回生)、丹後美貴(大2回生)、福高拓郎(大4回生)、村田汐里(大7回生)、川口恭光(大9回生)、橋戸了哉(大11回生)

・2022年度オープンキャンパス

7月9日(土)、8月6日(土)学友会兵庫支部に担当して頂いた。両日ともに、「放射線技師の魅力紹介」の講演、一般撮影、CT検査、MRI検査、マンモグラフィの装置紹介を行った。

兵庫支部スタッフ

神澤匡数(兵庫支部長 短7回生)、西田高大(短13回生)、奥 好仁(短14回生)、辻居賢一(短15回生)、榎本涼介(短18回生)、吉田隆人(大6回生)、田中 舞(大7回生)、山崎一樹(大7回生)

(4)名簿委員会

1)会員情報の登録および修正

令和2年度76名、令和3年度89名の卒業生を正会員として加えたほか、勤務先・自宅等の移動申請に伴って、随時修正を加えた(年間150件程度)。また、名簿発行にあたり、現況確認用紙を正会員に送付し(全3,458件に対して219件の変更あり)、情報の正確性の向上に務めた。

2)会員名簿の発行

令和4年度に2022年版 会員名簿を発行した。広告収入が12社 670,000円(前回12社 720,000円)、頒布収入が

157冊 314,000円(前回188冊 376,000円)であった。また、発行に掛かる費用は合計1,062,439円(前回1,112,297円)であった。

3)登録状況

令和5年2月末の集計で、特別会員12名、賛助会員262名、卒業生総数4,960名、逝去された方を除く正会員数4,037名、このうち連絡先が登録されている方3,431名(85%)であった。

(5)表彰委員会

1)表彰対象者の選考

「表彰規定」および「名誉会員並びに表彰候補推薦内規」に則り、各支部からの推薦者を含めて表彰対象者を選考し、理事会にて承認された。

2)2023年度学友会総会表彰者等

『名誉会員』に令和4年度副会長 西谷源展氏(44回生)を推戴する。

『学友会功労賞』を以下の2名に贈呈する。

1. 玉田 彰(53回生)

2. 笠井俊文(49回生)

『感謝状』を以下の3名に贈呈する。

1. 青木 彰(短1回生)

2. 島本(岡田) 絵里菜(短17回生)

3. 米田和夫(53回生)

『学友会荣誉賞』、『学友会奨励賞』の該当者はなし。

(6)財務委員会

1)一般会計

収入について、全体として103%の進捗(前期103%)であり、総額9,611,700円(前期10,744,142円)となった。事業支出では、学友だより発行費が1号あたりのページ数が増えたため32万円(前期23万円)と大幅に増額、名簿発行費は104万円(前期111万円)でほぼ同額となった。在学生対象の事業として、学園祭時の相談会と就職懇談会にそれぞれ22万円、38万円支出した。

また、総会補助金は2021年総会が広島支部開催から本部開催へと変更になり、リモート開催で12万円(前期30万円)で減額となった。通信費は153万円程度(前期153万円)とほぼ同額、旅費交通費はコロナ禍が続き、21万円(前期85万円)で大幅な減額となったが、その分、Web会議を実施したため、会議費は31万円(前期6万円)で増額となった。事務費は51万円(前期48万円)、消耗品費は32万円(前期30万円)でほぼ同額となった。支出全体として78%の進捗(前期96%)であり、支出総額7,218,123円(前期9,739,496円)となり、繰越金は2,393,577円(前期1,004,646円、前々期2,260,050円)となった。

2)終身会費

会費収入は新入生191名(前期185名)で573万円であった。積立金(国債)利息は前期と同じく86万円であった。支出では、一般会計へ会費収入を繰り入れたため、前期繰越金より利息分だけ積立額が増加し、総額4,381万円となった。

3)21世紀創生基金

今期2件の寄附(総額11万円)があった。支出はなく、繰越金は466万円となった。

以上